

優秀賞（国土交通事務次官賞） 作文（中学生）の部

『土砂災害から身を守る』

神奈川県小田原市立城北中学校 三年 富田 滉一

私は、小田原市に住んでいます。小田原市は田んぼが多く、市の中央には、酒匂川が流れており自然豊かな街です。四月には、桜が咲き乱れて、川には桜の花びらが流れていきます。六月には、田んぼに水が入り田植えをします。七月八月には、町全体に蝉の音が鳴り響きます。十月十一月には、箱根や丹沢の山が、赤く染まります。私の住む小田原市には、主に「酒匂川」・「山王川」・「狩川」の三つの川が流れています。

しかし、私の知る限りここ二十年間、三つの河川は氾濫していません。なぜでしょうか。それは、各河川に砂防施設が造られているからです。

私の住んでいる小田原市の近くの砂防施設は、「酒匂川」にある「格子型スリットI型」というものなどがあります。この、「格子型スリットI型」は、砂防堰堤の一種です。砂防堰堤とは、主に山間部などの上流域から、雨や沢の多量の水とともに土砂が一気に流れてくる土石流を、受け止めるなど、流失した土砂を下流域に被害が生じないように、安全にコントロールするために設置されるものです。このような、施設があるおかげで土砂災害の被害が少なくなります。

しかし、私はこれだけではまだまだだと思っています。なぜならば、このような施設があっても、私たちが土砂災害についての備えや心備えをしなければ、人命は助かりません。

- 一、常日頃から、気象情報に目を向け天氣に気を付ける。
- 二、常日頃から、近所の人とのコミュニケーションをとっておく。
- 三、土砂災害の仕組みを知っておく。
- 四、自分の住んでいる所の近くに土砂災害の起こる危険性がある所を知っておく。
- 五、自分の住んでいる町の防災マップなどを確認し、もし災害が発生した時の避難ルートや避難場所を家族で知っておく。

これらの五つの点を私たちみんなで心がけ、実行するべきだと思います。

一つ目の「常日頃から、気象情報に目を向け天氣に気を付ける。」は、山のふもとでは雨は降っていないくても、山では大雨の可能性があります。なので、いつも天気予報などの気象情報によって情報を手に入れることが必要なのです。二つ目の「常日頃から、近所の人とのコミュニケーションをとっておく。」は、土砂災害が発生した場合において、避難する時に時間短縮になるとともに、お年寄りや小さい子供などの避難の忘れや迷子の心配がなくなるからです。また、土砂災害だけではなく地震や洪水、津波などの時にも有効だと思います。三つ目の「土砂災害の仕組みを知っておく。」は、土砂災害の仕組みを理解しておけば、土砂災害の予兆もわかってきます。土砂災害の予兆とは、「山の匂いが違う。」や「山の方から音がする。」などといったことです。四つ目の「自分の住んでいる所の近くに土砂災害の起こる危険性がある所を知っておく。」は、土砂災害の危険性がある所を知っておけば、雨が降っているときには近づかないなどの対策が取れるからです。五つ目の「自分の住んでいる町の防災マップなどを確認し、もし災害が発生した時の避難ルートや避難場所を家族で知っておく。」は、土砂災害などの災害が発生した時に家族が離れていても、避難場所を知っておけば容易に家族の安否や安全を確認できるからです。また、避難ルートを知っておき、なおかつ二つ目のように近所の人とのコミュニケーションをとっておけば、ルート沿いの人たちと、一緒に避難することができます。

私は今十四歳ですが、土砂災害にはあつたことはありません。しかし、今の日本では毎年のように、いろいろなところで土砂災害が起きています。最近では、二〇一一年九月一日からの台風十二号により、大雨で土石流や深層崩壊などで、多くの死者行方不明者を出しました。また、二〇一二年の七月十一日から、「平成二十四年七月九州北部豪雨」でも、河川の氾濫や家の裏山が崩れるなどの被害があり、これもまた多くの死者を出しました。さらに、近年の「地球温暖化」によって台風の発生が頻繁になり、海水温度も上昇し雨雲が発生しやすくなり、それにより大雨で土砂災害が発生しています。

自然豊かな日本に住んでいる私たち。だからこそ、大雨が降ったら土砂災害が起こります。しかし、それはこの日本が自然豊かだからです。私たちは、自然に生かされています。それらを踏まえて、私たちは生きていかなければなりません。